

萬寶呂波乃登者仁沙喜都求富與宇香那
松東
卒業五十周年
十回生

記

萬寶呂波乃登者仁沙喜都求富與宇香那 松東 卒業五十周年 十回生
読み;まほろばの永久(とは)に咲きつぐ芙蓉かな

久留米大学附設高校の永久の弥栄(いやさか)を祈って詠んだ句。
俳句は字数が少ないので、ひらがなに置きなおした上、
万葉仮名をベースに萬・寶・登・仁・喜・富・香など、
極力いい感じのする漢字を当てはめた。

芙蓉の葉を意匠化した、久留米大学附設高校の校章は、
前身にあたる久留米医科大学予科の校章を引継ぎ、
1951(昭和26)年3月1日に制定されたという。

芙蓉は夏から秋、葉の付け根に淡紅色の大きな五弁花を開き、一日でしぼむ。
芙蓉は一日花なので、次々に咲き継いでゆくという表現がぴったり。
花言葉は「しとやか」「繊細な美」。
俳句では秋の季語。

また「芙蓉峰」は富士山の雅称。
句の「まほろば」は「すばらしい場所」の意で、理想郷即ち学園を指す。